

(様式 3)

平成23年度学融合推進センター学融合研究事業 成果報告書

研究テーマ名称	分野を越境した学術対話手法の開発と評価
応募事業区分	「公募型共同研究」(b)「新課題抽出支援」
申請代表者氏名	加藤浩

○ 研究状況報告

【平成23年度】

新たな作品の制作

23年度は、宇宙科学研究専攻の研究をテーマにした作品2点、極域科学研究専攻の研究をテーマにした作品1点、日本歴史研究専攻の研究をテーマにした作品1点、を制作した。その過程で、分野に関係なく、アーティストと研究者の対談が成立することが明らかになった。

伝達効果の検証

また23年度はサイエンスアゴラに作品を出展し、85名に質問し調査を実施した。その結果、アート作品は研究への興味は刺激するが、研究内容の詳細な伝達には不向きであるという傾向が見られた。今後はより正確な質問紙調査を実施し、展示の細かな機能と効果について検証していく。

また解説と展示物の関係に関するパイロット実験では、アート作品を見た解説者は研究者の内容を解説し、標本を見た場合だと標本の内容を解説することが分かった。

モデルの検証

関係者による実験の振り返りを行い、そこから今後の改善点を見出し、改善手法を提案していくため、23年度はアーティストとのシンポジウムと大学博物館の研究会を実施した。そこで、本手法の有効性と、科学の結果ではなく過程を見せていくことにテーマを絞ることが改善として挙げられた。今後は、本研究を認知心理学的観点より分析し、評価を行っていく必要があるだろう。

○ 当該事業年度において達成された研究成果

- 芸術家主催の対話手法の改善を目指すシンポジウムの開催
- 学術展示の研究会の開催
- 芸術作品4作品制作
- パイロット実験

○ 本研究を基に発表した論文と掲載された雑誌名等のリスト（論文があれば添付）

(様式 3)

平成 24 年度学融合推進センター学融合研究事業 研究成果報告書

研究テーマ名称	分野を越境した学術対話手法の開発と評価
応募事業区分	事業枠①(C)「公募型共同研究」※旧：公募型共同研究事業
申請代表者氏名	加藤 浩

○ 研究状況報告

新たな作品の制作

24 年度は、生理科学研究専攻の研究をテーマにした作品 1 点、を制作した。その過程で、分野に関係なく、アーティストと研究者の対談が成立することが明らかになった。

伝達効果の検証

また 24 年度は文系大学生を対象に、印象評価と感想文調査を実施した。その結果、科学に関心があるグループは標本の面白いという印象と、アート作品を楽しんでいるという印象が有意に関心がないグループより高かった。より詳細に分析した結果、アート作品単独では新奇性が高く難解な印象を抱かせる可能性があることが分かった。今後はより正確な質問紙調査を実施し、展示の細かな機能と効果について検証していく。

また展示物に関する感想文では、アート索引の意図がつかめないという意見が多く、アート作品を展示する場合に、適切な解説が必要な事が分かった。

モデルの検証

平成 24 年度は、関係者による本実践を振り返りのインタビューを行った。その中で、アーティストは、決して科学者の意見のみを根拠に制作しているのではなく、科学者との対話後、自分なりの発想を元に作品を制作していることが分かった。

今後は、これらの分業的コラボレーションについて、詳細に検討していく必要があるだろう。

○ 当該事業年度において達成された研究成果

- 学会発表

研究文化を伝達するアート活用手法の開発とその効果の検証 科学教育学会第 36 回年会

- 他機関での展示

AMATEURISM! - Heidelberger Kunstverein(2012)

ドイツの美術館での展示

- 科学研究費補助金

研究文化を表象する学術展示制作手法の開発と評価

(挑戦的萌芽研究 研究課題番号 24650522)

○ 本研究を基に発表した論文と掲載された雑誌名等のリスト (論文があれば添付)